

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 54

2023年8月発行

令和5年度 企画展⑩

植田家の(照明じゃなく)証明

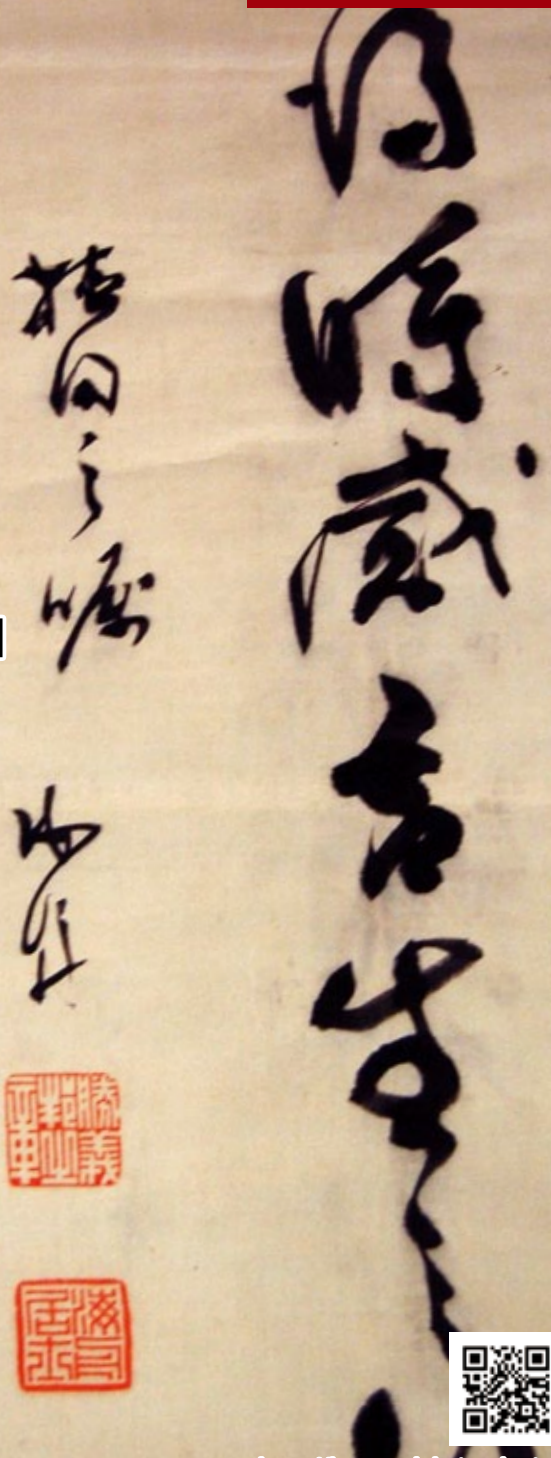
錦影絵プロジェクト、始動。

講演「旧家で親しむ伝統
芸能“錦影絵”の世界」

畑活用計画(＃畑ぶる)

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十八)」




展示・イベント案内

[令和5年度 特別・企画展②]

旧植田家の資料にみる 関東大震災100年

～地震・雷・火事・災害～

会期 令和5年(2023)
9月1日(金) - 10月30日(月)




47枚の記録写真が伝える
関東大震災の爪跡。

※展示では34枚の写真をパネルにしています

期間中のイベント


- 9月3日(日) 防災! かまどでご飯炊き体験
- 9月30日(土) 回家で親月会(夜間開催)とお月見コンサート
- ☆10月14日(土) 企画展関連講演会「八尾の防災」
13:30～15:00 参加費:50円、定員:40名(要申込み先着順)
- 10月15日(日) うえまつ劇場
～お家で人形劇・紙芝居～

八尾市指定文化財 (指定管理者:NPO法人HCAL) 
安中新田会所跡 旧植田家住宅
〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25 TEL/072-992-5311
(入館料)一般250円、高齢・大学生120円、中学生以下は無料

【交通案内】 <http://kyu-uedakejutanaku.jp/>

- JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
- 近鉄大和線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行、
JR八尾駅前バス停下車、商業へ徒歩約5分

※当施設には駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。



展示のご案内

9/1(金) - 10/30(月)

特別・企画展「植田家の資料にみる関東大震災100年～地震・雷・火事、災害～」

旧植田家にある関東大震災や災害関連の文書や写真などの史資料を展示します。

※休館日はP15をご覧ください

Contents

- 4 令和5年度企画展①
植田家の(照明じゃなく)証明
- 6 通常展
「大和川付替えと植田家の收藏品」
- 7 旧家で記念撮影～こどもの日～
新聞かぶとを作ろう
- 8 錦影絵プロジェクト、始動。
旧家で親しむ伝統芸能“錦影絵”の世界
- 10 畑活用計画 (# 畑ぷろ)
- 11 日日植田家住宅 第11日:幻燈師見習い中
- 12 四会所だより(34) ~大東市・平野屋新田会所~
- 13 植ちょぴ(植ボラ、一筆箋、後期の話)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十八)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真



展示室入口にて
バックナンバー
配架中(一部)

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

勝海舟/二行書(陶淵明詩)

旧植田家住宅所蔵の勝海舟の書。為書きには「植田之囑」とあり、何らかの植田家の求めに応じて勝海舟が書いたものであることがわかる。令和5年度企画展①「植田家の(照明じゃなく)証明」は4・5頁で紹介。



令和5年 春季企画展

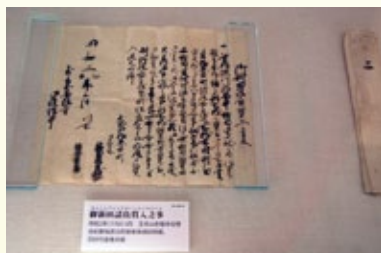
植田家の(照明じゃなく)“証明”

2023年

4月29日(祝・土)～7月3日(月)



「安中新田検地帳」(市史指定文化財)



「御新田請負質入之事」(明和2年(1765))



新田の村政・水利・土木などを示す資料

安中新田と会所の証明



諸届(明治10年(1877)～
明治13年)



← 展示品目録は
こちら



願書・届等雛形

旧植田家・歴史・文化・事業の証明



印箱と各種印鑑



河内カタン糸会社関連資料



河内鉄道敷設計画関連資料

正徳元年(1711)の『安中新田分間絵図』により安中新田は複数の主体からなる新田の総称であることが明らかとなった。また、「会所屋敷」の位置と、植田家が支配人になる以前の会所について証明する。なお、会所の役割は農民からの小作料の徴収、幕府や

【安中新田と会所の証明】

宝永元年(1704)の大和川付け替え後、旧川跡の各地では新田開発が行なわれた。安中新田もその一つであり、新田を管理するための会所では、植田家がこの地にやってくる以前から安福寺によって経営が行なわれていた。その後支配役を引き継いだ旧植田家についてはさらに多くの文書から当時の状況が明らかとなっている。

本企画展では、当地が安中新田と会所跡であったという根拠となる資料をはじめ、旧植田家が代々担った金融業や諸事業に関する文書、植田家に伝わる美術工芸品や書画類とその真贋を判断するもの等にスポットを当て、「植田家の証明」を行なった。

宝永元年(1704)の大和川付け替え後、旧川跡の各地では新田開発が行なわれた。安中新田もその一つであり、新田を管理するための会所では、植田家がこの地にやってくる以前から安福寺によって経営が行なわれていた。その後支配役を引き継いだ旧植田家についてはさらに多くの文書から当時の状況が明らかとなっている。

植田家の(照明じゃなく)証明

令和5年度企画展①



中江兆民の扁額「牆外底」(為 植田君)と兆民関係資料



勝海舟と西郷隆盛の書

為書と真贋の証明



文部官僚・九鬼隆一の書
(為書「一郎植田君」)



九鬼隆一からの書状



楽焼の茶碗と香合と箱

その他の証明



極意・相伝免状(鏡新独明流殺活秘術)

安福寺からの命令を伝えるための管理事務所としての機能があったことが古文書からうかがえる。

【旧植田家・歴史・文化・事業の証明】

植田家が安中新田の支配人になったのは、新田開発からおよそ50年後の宝暦12年(1762)のことで、大和田原本出身の初代・植田林蔵であった。以後20年に渡り支配人を務めるとともに「大和屋市太郎」と名乗り質屋株を買い取り金融業も始めている。

4代目植田市太郎、5代目の植田一郎の時代には新田の支配役とともに金融業、学校教育・支援活動を続け、政治家として地域のために尽力した。また製糸・製油・酒造・製薬・鉄道会社など様々な事業の設立と経営にも関わった。

【為書と真贋の証明】

為書とはある書画が「誰のため、何のために書かれたか」を記した字句である。所蔵する書画類のいくつかにこの為書が見られ、植田家と作者との関係が窺える。さらにこれを証明するための資料も併せて展示した。

(学芸員 安藤亮)

【通常展】

大和川付替えと植田家の収蔵品

・3月17日(金)～4月24日(月) ちよいひな祭り

・7月7日(金)～8月27日(日) 動物もん



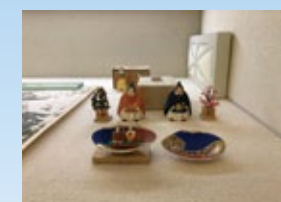
通常展

大和川付替えと植田家の収蔵品

・ちよいひな祭り

年3回の企画展の合間の期間に開催する通常展では、大和川付替えの歴史と旧植田家に関する事柄をパネルで展示し、一部収蔵品を紹介しています。

ひな祭りが終わってすぐの通常展では「ちよいひな祭り」と題して、数少ない植田家に残る雛道具や雛飾り(小物)を展示しました。それぞれ昭和期のもと思われる、大切に使用されていたことが分かります。現代のお家でも飾ってみたくありませんね。



貝合せ雛飾り置物

三方型雛飾り置物



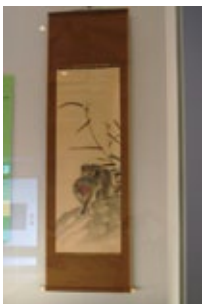
「源氏物語図雛屏風」右隻 (本紙のみ修復)

・動物もん

旧植田家住宅には江戸・昭和時代の日用品から美術工芸品まであらゆるものが収蔵品として伝わっています。中でも時代や様式によって様々な表現がみられる「動物」をモチーフにしたものにはつい目を惹かれてしまいます。そこで7月の通常展では「動物もん」と題して、8月の特別企画「旧植田家ZOO(ずー)宅」と合わせて、動物の描かれた大津絵、陶磁器類などを展示しました。

次回の通常展は11月「文化・年中行事編」を予定しています。企画展では見られない思わぬ物に出会えるかもしれません。

(学芸員)



猿図(伝森祖仙)



大津絵「猫と鼠の酒盛り」



染付青海波兔文鉢



木彫「鼠」(要慶作)

きゅうか きねん さつえい

旧家で記念撮影

2023年 5/3(水) ~ 5/28(日)

～こどもの日～

◎5・5新聞かぶとを作ろう

例年5月は「こどもの日」を記念して座敷1の床の間と座敷2の神間に五月人形を飾り、旧家で記念撮影の期間を設けています。また昨年からは5月5日のこどもの日限定企画として「新聞紙でかぶとを折る」イベントも行なっています。

今年は昨年より少しバージョンアップし、新聞かぶとを作る工程で余った紙を使い、武将が手に持つて振る「采配さいはい」っぽいものも作れるようになりました。兜よりこの采配っぽいもののほうが子どもたちには大人気でした。

昨今、新聞紙があまり身近なものではなくなってきましたが、時折昔を思い起こし、新聞紙で遊んでほしいと思います。

(スタッフ)

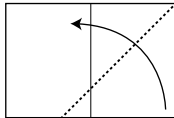


新聞かぶとのちょっとカッコいい Ver.
(※作り方のものとは異なります。)

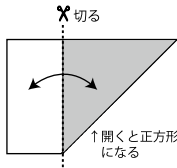
5月5日 旧家で記念撮影～こどもの日～

「新聞紙でかぶとをつくらう」

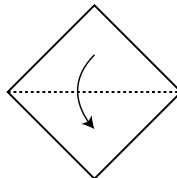
(新聞紙見開き)



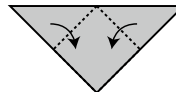
① 正方形を作るのに図のように折る



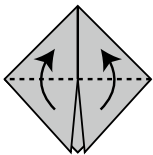
② 点線の位置で折返し、カットする



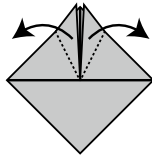
③ 正方形ができたら、三角形に折る



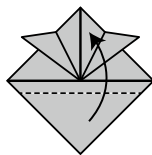
④ 角と角をあわせるように折る



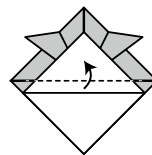
⑤ 手前を折り上げる



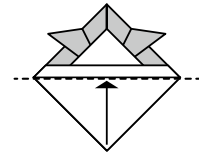
⑥ 先端を点線で折る



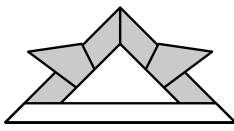
⑦ 手前の1枚だけを点線で折り上げる



⑧ さらに余った部分を点線で折り上げる

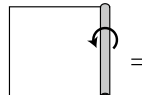
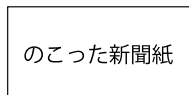


⑨ 残った部分を中に折りこむ



⑩ 新聞かぶとの完成!
※お好みで飾りをつける

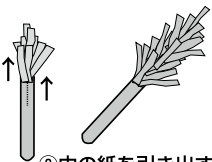
のこった紙で「采配さいはい」っぽいものをつくらう!



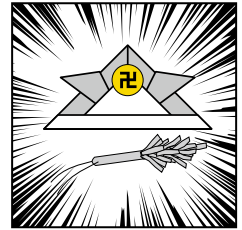
① クルクルまく



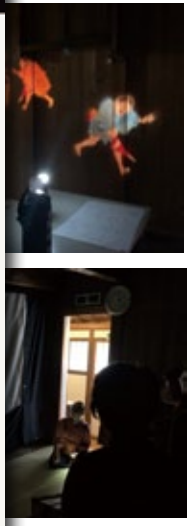
② 先を縦に1/4切る



③ 中の紙を引き出す



安中新田会所跡 旧植田家住宅
(指定管理者 NPO法人HICALI)



◎旧家で親しむ伝統芸能

「錦影絵」の世界

(2017年)、「乙女文楽の世界」(2022年)など様々な芸能・伝統文化を紹介する取り組みを行ってきた。新型コロナウイルスの騒動も少し落ち着き、世の中が動き出した令和5年(2023)は、「錦影絵の世界」にふれるプロジェクトを企画した。

・旧家で「錦影絵」プロジェクト

錦影絵は江戸時代の幻灯機を使った芸能の一種である。西洋幻灯機が日本に伝わった時期と旧植田家住宅の主屋や土蔵1が建てられた時期はほぼ同じ頃になる。この錦影絵を現代の旧植田家住宅で実演できないかと依頼したのが、平成16年(2004)に錦影絵の風呂(木製幻灯機)と種板(スライド板)の復元製作を行ない、上演を続けてきた「錦影絵池田組」だった。

ところがこの数年で活動を縮小しかけていた錦影絵池田組の現状から、新たに旧植田家住宅で幻灯師を育成し、本格的な上演を目指すというプロジェクトへと進化していった。

本プロジェクトでは錦影絵に関心のある参加者を募り、半年間の練習を経て、幻灯師として錦影絵演目の上演を目指す。そのためのプロセスとして、「錦影絵を知る」と「錦影絵を演る」の二段階に分け、まずは6月10日(土)に「錦影絵を知る」ための講演会を行なった。

旧家で「錦影絵」プロジェクト、始動!

◆幻灯師やってみひん? 期間:2023年 6月~11月(毎月2回程度 練習予定、11月上演)

江戸時代・大阪発祥の伝統芸能「錦影絵」を知って・学んで、「幻灯師」になって演じてみませんか? このプロジェクトでは「錦影絵池田組」の指導のもと、練習を経て、錦影絵演目の上演を目指します。

◎定員:10名 ◎対象:小学4年生以上 ◎参加費:3,000円(全期間、教材費込み) ◎詳細はお問い合わせください。

八尾市指定文化財 (指定管理者:NPO法人HICALO) 安中新田会所跡 旧植田家住宅 〒581-0084 大阪府八尾市穂松町1-1-25 ☎/f 072-992-5311 info@kyu-uedakejstaku.jp

旧家で親しむ伝統芸能

にじき かげ え

「錦影絵」の世界

講師・池田光憲氏(影絵師)御披露

令和5年 6月10日(土) 14時~15時30分予定

◎定員40名 ◎参加費(資料代)500円 ◎対象:小学4年生以上 ◎会場:旧植田家住宅

◆お問合せ・お申込み◆ 5/3(水)~受付開始
電話・FAX・メールまたは施設窓口にて受付。メールの場合は件名を「6/10錦影絵 講演」として「氏名・年齢・住所・電話番号」を明記の上、お申込みください。

旧家で「錦影絵」プロジェクト

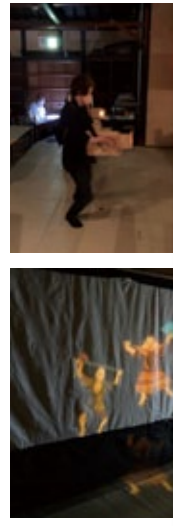
講演

幻灯師が魅せる
日本アニメの源流「錦影絵」。
その技術や歴史・文化を知る。

旧家で親しむ伝統芸能
「錦影絵」の世界

復元された幻灯機(通称「風呂」)

動きを演出する種板(スライド)



旧植田家住宅では、これまで自主事業「旧家で芸能・伝統文化」の中で、旧家の建物を活用した「落語の会」(例年)や「講演とのこぎり音楽の会」

錦影絵小品「曲独楽」の一場面を生みの語りで上演



暗闇の中、和紙スクリーンに資料を投影して講演する池田光恵氏

・講演会「日本のアニメーションのルーツ「錦影絵」の魅力」

「錦影絵池田組」代表・池田光恵氏による講演会が6月旧植田家住宅の一室で行なわれた。今回は錦影絵の試演も行なうことから会場は暗闇に包まれ、約40名の参加者が和紙スクリーンに投影される映像に注目し、池田氏の講演に耳を傾けた。

講演は、錦影絵小品「曲独楽」の一場面の実演から始まった。スクリーンの裏ではこの日のために練習を重ねてきたスタッフが緊張しながら待機。およそ7分間の熱演だった。

本編に戻り、まずは江戸時代の日本に伝わり独自の進化を遂げた「和製幻燈と西洋幻燈」について、ガラスやレンズの文化的背景と共に幻燈機が芸能へと結びついていく過程が語られた。本講演会では未公開の資料も例示され、錦影絵が今なお伝承され、芸術の域にまで高められた様子が伝わった。

後半では当時の光源に近い色味を活かした錦影絵の試演もあり、会場の雰囲気と一体となった。この日「錦影絵プロジェクト」が本格的に幕を開けた。

(旧植田家住宅スタッフ)



出演者、全員集合(終演後の様子)



錦影絵演目「池田の猪買い」の抜粋を試演。
幻燈機には当時の色味を再現するためのフィルターを使用。



ガラス工芸品のぼっぴん(ビードロ)



光源による色温度の比較

旧植田家住宅の小さな畑を活用して、地域のむかしを学ぼう！

は た ぶ ろ
畑活用計画！
はたけかつようぶろじえくと

「河内木綿の綿を育てよう」

◎期間：2023年5月～9月下旬・収穫まで(予定)

旧植田家住宅 twitter(#畑ぶろ)で
毎週土曜日10時ごろ畑の状況を公開。
今後の予定もtwitterをチェック。
twitter.com/KyuUedakejutaku/

#畑ぶろ

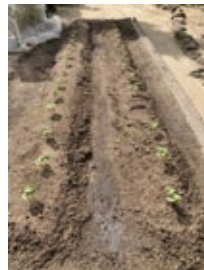
※プロフェッショナルの意味ではありません。



8/12 更新(台風前の様子)



7/10 更新(摘芯)



5/27 更新(苗整列)



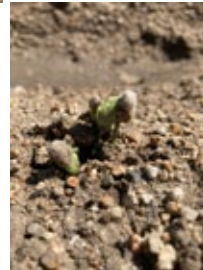
5/6 更新(種時き)



7/15 更新(開花)



6/24 更新(苗交代)



5/12 更新(発芽)



畑活用計画(#畑ぶろ)

旧植田家住宅の庭にある小さな畑ではこれまで「なにわの伝統野菜」の栽培を畑企画として行なっていました。現在は「畑活用計画」(#畑ぶろ)として細々と野菜や綿(棉)を育てています。畑ぶろの「ぶろ」はプロジェクトあるいはプログラムの意味合いで、参加者と一緒に畑を活用した事業を計画したいという想いが込められています。しかし、残念ながら以前のように参加者は集まらず、スタッフだけで続けています。

かつて河内地方一帯で栄えた河内木綿の原料である綿は、今も八尾市内外の各所で様々な人たちによって伝承的に育てられています。旧植田家住宅でも畑ぶろの一環として取り組み、種まきの時期である5月には「河内木綿のまち・やお」と題して種の無料配布を、また種から育てるのが難しい方には6月ごろに苗を無料で配布しています。このようにお伝えすると「種より苗の方がいい」という方が多いのですが、ぜひ種から育てて「#畑ぶろ」でつぶやいて(ポストして)みてください。

(施設管理者)

第11日:幻燈師見習い中

Apprentice

Magic Lantern Artists



【夜→灯籠→光→影→影絵→錦影絵】

今年度6月から始まりました「錦影絵プロジェクト」(詳細は8-9頁)。その前振り(構想)はずでに数年前より年1回行なっている夜間開館の中にありました。夜間開館→「植松灯籠の日」→昔のくらしと光と影→影絵遊び→錦影絵……。と連想ゲームのように錦影絵が導き出され、人と時間との間で様々につながりながら、ここ旧植田家住宅で意外な形で実現することとなりました。

【風呂と幻燈師】

錦影絵の幻燈機(げんととうき)(通称:風呂ふろ)を操作する人のことを「幻燈師」と呼びます。おそらく世界でも数える程しか存在しません。そもそも幻燈機そのものが貴重で、今回その風呂を復元して数年前から幻燈師としての活動も行なう「錦影絵池田組」の指導によって、幻燈師を目指す本プロジェクトが進行しています。



初めての風呂(準備作業)

【講演会上演の裏側】

6月の錦影絵講演会での試演のため、植田家スタッフらが練習を始めたのが4月。池田組の幻燈師を交えた2時間ほどの練習会もわずか6回で本番を迎えました。

錦影絵を知るワークショップ、風呂・種板・スクリーンなど道具の取り扱い方、

上演する演目の確認などが終わってようやく

動き出した頃には残り一カ月に。本番直前まで練習を重ね、プロジェクトの第一歩を踏み出しました。



練習会(写真上)と本番前の裏側(同下)の様子

【幻燈師見習い中】

そんなこんなで始まったプロジェクト。現在10名の幻燈師見習いが集まり、11月の上演に向けて日々練習を行なっています。当日は「植松灯籠の日」もあり、暗くなるのが待遠しいです。



全10回の練習で錦影絵の上演を目指す。

四会所だより (34)

『平野屋新田会所跡』

総合調査報告書』が完成

このたび、大東市は、『平野屋新田会所跡総合調査報告書』を刊行しました。この報告書には、江戸時代の深野池の新田開発の歴史と、新田を管理・運営した平野屋新田会所に関して、考古学・文献史学・建築史・民俗学・美術史等の幅広い調査成果と論考が収録されています。

平成二〇年(二〇〇八)に平野屋新田会所屋敷が宅地開発のため解体された後、大東市は平成二二年度に千石蔵・道具蔵・船着場の遺構が残る会所跡北西隅の土地を、令和四年度には千石蔵跡北側の周濠の遺構が残る土地を公有化し、市史跡「平野屋新田会所千石蔵跡・道具蔵跡・船着場跡・周濠跡」として保存されています。

平野屋新田会所の遺構は一部しか残すことができませんでしたが、この間、「平野屋新田会所文書」や会所ゆかりの民具、会所跡周辺に残る坐摩神社や樋門などの調査が進展し、平野屋新田会所が担っていた様々な機能や、新田経営の実態、新田で生きた人々の暮らしなど、豊かな歴史的事実が明らかになってきました。これらの調査には、各分野の専門家のほか、地元住民や平成二六年度から活動している平野屋新田会所市民サポーター、大阪産業大学や近畿大学の大学院生や学生など、多くの方に協力していただきました。

『平野屋新田会所跡総合調査報告書』は、官・民・学の連携・協力によって進めてきた平野屋新田会所跡と関連遺産・関連史資料の調査の集大成であり、大東市はこの報告書の成果を踏まえ、令和五年度に「市史跡平野屋新田会所跡保存活用計画」を策定する予定です。

『平野屋新田会所跡総合調査報告書』を多くの方にご覧いただき、大東市発展の

基礎となった深野池の新田開発と平野屋新田会所の歴史について関心を持っていただければ幸いです。

(大東市産業・文化部生涯学習課 佐々木拓哉)



『平野屋新田会所跡総合調査報告書』

※大東市立歴史民俗資料館などで販売しています。



平野屋新田会所跡の現状
(令和5年7月・西側から)

「植田家住宅の・ちよっとした・トピックス」

植ちよぴ。(ックス)

①「植ボラ養成講座」不開講

2023年6月〜8月

旧植田家住宅の一般見学や学校園からの団体見学時のガイド(案内)をはじめ、各事業のサポーターとして活躍する「旧植田家ボランティア」(旧ボランティアガイド)を養成する講座が6月から開講予定であったが、今年度は応募者なしのため不開講となった。同講座はガイドに必要な知識や技術の習得の他、旧植田家住宅での取り組みについて知る機会として全3回の講座を実施し、毎年定員5名の募集を行っている。次年度も5月より募集を開始予定。エントリーお待ちしております。

②「旧家で一筆箋」作りました

2023年6月〜

現在、旧植田家住宅の入口受付前にあるフリースペースでは「みやげもの」として、各種オリジナルグッズを販売している。定番のブックカバー、名刺入れ、扇子入れ、コースターなど植田家にあつた古布を使ったグッズは季節ごとに売れるものが変わり、夏は「扇子入れ」(扇子おまけ付き)が売れている。

今年度6月からは新商品として「一筆箋」の販売を開始した。デジタル時代にあつてこのアナログな商品を使う機会も少なくなっていると思うが、あえて使ってもらふことで手書きの良さを伝えたい。また意外に贈り(送り)物などをする際に便利なのが一筆箋。ちよっとしたメモやメッセージ、記念品にお土産としてもぜひお買い求め下さい。縦・横のセットがお得です。

マンジークン

安富士 暁

続・影絵



③後期の話

2023年10月〜3月

前期は9月の観月会を最後に後期へ突入する。10月から旧植田家住宅では毎月何かしらイベントや展示を開催する。後期の予定は随時ホームページ等をご覧ください。また12月までの予定は本誌15頁に掲載。

安中新田会所跡 旧植田家住宅

お待ちしております。

おりじなる
グッズ

旧家で一筆箋

 (いっぴつせん)

・ちよっとしたメモや記念品、お土産に最適！

- 横書き用(長屋門 立面図)] 各300円
- 縦書き用(主屋 立面図)

◎縦・横セット(各1冊計2冊)・・・500円

受付にて販売中。

縦書き用
横書き用
(30枚綴り)

落穂拾い

— 今東光の董風 — (四十八)

文・伊東健

大正十二(1923)年八月七日に生まれた司馬遼太郎は今年、生誕百年を迎えます。今東光と司馬の縁は深く、東光が次のようなことを書いています。

(前略)

「未生」誌の国田君が、産経新聞社文化部次長の福田君と一緒に来訪。この福田君はかつて京都支局にあって宗教界を担当したので佛教界に顔が広く、かつ青木君とも親しい間柄なのでいつも愉快につき合っている。今日の用件は小説のことと共に新しい構想のもとに雑誌を出す件だ。彼の抱負を聞いてみると、こつちまで楽しくなり、いとも簡単に出来るような気がしてくるから不思議だ。(昭和三十二(1957)年二月七日発行)

「中外日報」掲載「鴨東雑記より」

天台院に来訪したこの福田定一こそが、後の司馬遼太郎ですが、新しい構想の雑誌

というのが「近代説話」のことだと推測されます。東光は、藤澤桓夫、源氏鶏太、海音寺潮五郎とともに、この同人誌を強く支援します。

司馬遼太郎名義での初の単行本「白い歓喜天」が出版された時には、東光は以下のように書きました。

司馬遼太郎君というのは筆名で宗教界では知人の多い福田定一君である。僕が河内に住み、大阪と関係が深くなって以来の親友だ。かつては京都支局で七、八年宗教を担当した人だから、僕とは宗教と文学の両方で話が合う。二、三年前「ベルシヤの幻術師」で講談社賞をえてから、小説をかきはじめ、こんど「白い歓喜天」という特異な創作集が出た。

僕は、こうした広大な文化史の領域に、司馬君が挑もうとしている心組みを高く評価したい。こうした領域は、今まで名実ともに歴史家や探検家のものにすぎなかったのだが、その沙漠の上には、人間のうかがえない時間に、神秘の星がまたたいている。その星と語らうためには司馬君のように文芸という自由な思考方法を用いることが必要だ。そこに、死んだ人たちが生きかえり、

心情を切々と語るあたらしい佛教美の領域がある。

司馬君はまだ若い。これから本当の人生の辛酸をなめ、それを自らの才に加えて行つたとき、彼のエキソチシズムが沙漠の夜空にきらめく星のように輝くことになるだろう。僕はそれを期待している。

(昭和三十三(1958)年七月三十一日発行)

「中外日報」掲載「特異な佛教美の世界」

司馬遼太郎著「白い歓喜天」を推す「より」

東光は二回り近く年若い司馬を「親友」と呼び、その才能が羽化し飛翔していく様子を温かく見守っていました。司馬の「梟の城」が出版された際にも、帯に「千金の名馬」と記した推薦文で讃辞を惜しみませんでした。河内で暮らす中で、この二人の出逢いは、いつまでも語り継ぐべき郷土史近代遺産として燦然と輝いています。



司馬遼太郎の直木賞受賞作品
「梟の城」の表紙(帯に今東光)

旧植田家住宅のご案内

【2023年9月～12月】

これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」
 // 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

2023年

◎9月1日(金)～10月30日(月)

特別・企画展「旧植田家の資料でみる
 関東大震災100年」

★10/9(祝・月) 展示解説の日

◎11月3日(祝・金)～12月4日(月)

通常展「大和川付替えと植田家の收藏品」

◎12月9日(土)～3月11日(月)

企画展「昔のくらし:火一日(ひ ひとつ)」

展示、イベント等のお知らせは
 ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



イベント

(詳しくはお問い合わせください)

9月 3日(日) 防災!かまどでご飯炊き体験

30日(土) 旧家で観月会(夜間開館) 18時30分～20時30分
 ※お月見コンサート開催(19時～)

10月 14日(土) 講演会「八尾の防災」(八尾市危機管理課)

15日(日) うえまつ劇場～お庭で人形劇・紙芝居～

11月 18日(土) 植松灯籠の日(夜間開館) 17時～20時30分

※錦影絵上演(夕方)

★11/3(祝・水)～26(日) 旧家で記念撮影 ～七五三～

★11/18・19(土・日) 関西文化の日(入館無料)

12月 16日(土) こども昔くらし体験 ～冬編～

23日(土) おもちつきの会

※予定は変更する場合があります。



休館日カレンダー

■ = 休館日

9 September

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10 October

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

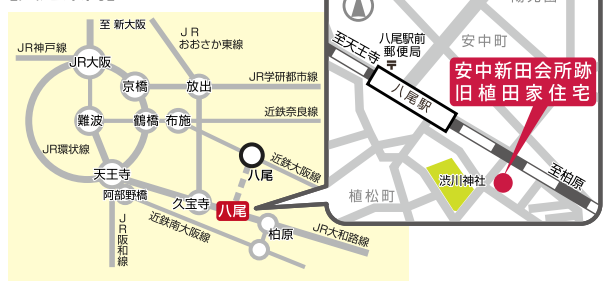
11 November

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12 December

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

【交通案内】



◇ JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇ 近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
 JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

※当施設には駐車場はありません。車でのご来館はご遠慮ください。

●開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
 (詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料：一般250円(団体20人以上で120円)
 高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料

●お問い合わせ・見学のご相談(ご予約など)

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX: 072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

#編集日記(8・18)

コロナウィルスの猛威、連日の猛暑がお盆休み後に終息してくるわけもなく、相変わらず人通りも入館者も口数も減る一方、仕事が減らないことは有難くも猛省しないといけません。この編集日記は4日に書き出し、少し保留している間にもう2週間が経過。その間猛烈な台風7号が通過し、さらに仕事を増やして行きました。▼現在、猛スピードで作業を進めながら頭の中には「忘己利他」の四文字がぐるぐる回っています。

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

